

### 3月9日 コンテンツビジネス交流会議事録

#### 第1部

#### ファッションの世界から見る日本の文化資産の危機と再構築

浅沼氏

産経新聞でコラムを書いている中で多くの人に出会い、いろいろなことを考えた。また先日仕事でパリに行った際、ショックを受けることがあった。

今日は体験してきたことを話したい。

今までパリコレの仕事などでパリに行く機会は多かったが、忙しくて時間が取れなかった。先日やっとオペラ座に行くことができた。

→オペラ座での体験

デザイナーとしての活動をする中、日本の伝統文化にも興味を持ってきた。伝統芸能の役者に師事することもあった。

→歌舞伎座での体験

#### ・電気の文化で残せる遺産？

電気がなくても残るものはなんだろうか。

パリと日本を比較してみたい。

日本では1889年に歌舞伎座ができる。

1921年に火災、23年に関東大震災、戦時中には戦災があり、今の形になったのは戦後になる。座席数は日本一。

翻ってオペラ座はというと、その豪華絢爛さに驚いた。

教会でも美術でもなく劇場がこれほど立派だという点に着目すべき。

一国が信仰でも私的財産でもなく娯楽や接待に使うのが劇場。

文明国は最も重要な位置に最も豪華絢爛な劇場を建てる。

国としての文化力を誇示するものである。

美術館を見るより、劇場を見るほうが総合的な芸術を見ることができる。

どれだけ演出がなされているかを感じることができる。

素晴らしい彫刻、絵画などの生きた芸術がある。

→世界に挑戦するつもりが、文化力の差異に絶望してしまった。

国力と文化レベルの誇示とてなしの気持ち

↓

財力

↓

美的センス＝知的レベル

技術と活力

ショー＝言葉を越えたコミュニケーション

人材と気力

値段も1万円を切るくらいで見られてしまう。

底力を感じる。

**なぜ日本の伝統芸能が遅れてしまうのか？**

民間にゆだねすぎたツケがある。

パトロンが不在。

オーディションがなく、世襲で成り立ってしまっている。

もてなしの気持ちを感じられない。

マニュアル型、無機質なサービス

クローク、エレベーターの不備、不味い弁当

食事や土産物屋も洗練されていない。

(歌舞伎座の話)

オペラ座…ガルニエ「宮」 王侯貴族用 オーディション制

歌舞伎座…歌舞伎「座」 庶民用 家柄で維持

**なぜ日本に建築が残らないのか？**

木や紙でできている。消失してしまう可能性がある。

→木造建築は形の維持が難しい。

石は中身だけリフォームすれば残る。

形がなくなっても意識として残るのが日本の精神文化であったはず。

→差別化できる文化

侘びさび

目に見えるものがなくても豊だった日本人

マイナスして1本の花でもてなす日本、満開の花でもてなす西洋  
情緒豊だった。

インスタントとシンプルな落差

味付けの濃いもの・素材が生きない  
リーデルのグラス・シンプルゆえに作りこまれた歴史  
日本のシンプルさ・体のサイズから割り出された使いやすさ

インスタント → 時間短縮  
シンプル → 過程に対する積み重ねと洗練の完成品

シャネルとルイ・ヴィトン ディオールに思うブランド戦略  
大人の在り様の方向

高級ブランドがなぜ若返りを図るのか？  
マクドナルドと同じで、若いうちに味をしめたものは一生忘れない。

海外だとある種客も選別するくらいの意識なのだが、日本だといかに若者に売るかを考えている。

大人が作り手への尊敬、大切さを教えるべきでは？  
ブランドの餌食になってしまう。

シャネル→ホスピタリティ、アイデア、センスを重視して敷居を低くしようとしている but 消費者教育を  
やろうともしている

シャネルは女性のブランド  
ディオールは男性→女性のブランド

先日の話 シャネルのショーで、小学生や引きこもりの人を連れてきた。  
一流ブランドのヒューマニティを考えた。  
いったん全ての人を受け入れて、そのよさに気付いてもらう。

そんなブランドの息づく街は、大人が子供を育てていく場所。  
世代を超えて交流する街であるべきだ。

日本の情緒の豊かさを生かした街ができないものだろうか。

Q. どういう教育をすべきなのか

A. 品格に気付かせるものではないか。ヨーロッパでは階級社会でありながら、ホスト精神は生きている。  
気遣いができる人には「できる人」「懐には飛び込めない」という憧れのような意識を持たれる。そ  
ういった環境で育つことが重要だと思う。

Q.ディオールについての考えを聞きたい

A.個人的には好きなブランド。女性までもが平気で戦争に駆り出された時代に、エレガントな服を作って美しさを開眼させた。しかし今のディオールは仮想パーティに近いもので若い子向けの発信のようになってしまっている。対抗するチャネルに対し、若く派手なイメージを持たせている。パーティも芝浦のクラブでやっている。平和のために、人のためにやっていたというイメージからは離れてしまっているのではないか。

Q.日本は確かに廃れてしまった文化が多いと思う。新しい文化は生まれないのか？

A.捨て去ったものが大きすぎる。ひょっとしたら最初から持っていなかったのかもしれない。次の世代に咀嚼しながら伝えていくのが必要だと思う。オペラ座で感じたのは、どんなに新しいことをやろうとしても歴史の重みにも勝てない。単なる流れの新しさではなく、意味ある新しさにするために昔のいい点を生かすといいのではないか。

ちなみに3年もった新ブランドはほとんどない。

最近の潮流としては「リラックス」が一つのキーワードになってくる。インスタントではなくシンプルなもの、見た目は地味でも奥行きのある完成度の高いものが注目されるのではないだろうか。

## 第2部

### 「現代を生きる女性12人によるコラボレーションショー」

#### 秋本さん

女性は結婚、出産、子育てで様々なリスクがある。

ダンスやスタントをやっているが、怪我をしてもサポートしてもらえない環境にない。芸能界は歩合制でギャラが入る。サポートし合いながら回せる仕組みができないものか？

何とかして発信をしていけないか考えている。

アジアのファッションをテーマとして取り上げていく。

才能のある人を世に出していきたい。

ぜひアイデアをいただきたい。

#### 愛川さん

感性を豊かにする活動をしたい。

充実感を得られる環境があるのか？

利益や受験などに流されやすい世の中を変えるための取り組みをしたいと思っている。

今回のショーでは、女性の生き方がテーマ。女性をクローズアップしているものが少ないが、もう少し世に出ると変わってくると思う。

## フィルムマーケットの話

Q.メインになるのは映像なのか？

A.ファッションショーのように服を見せて踊るのではなく、衣装を中心にして歌や踊り、映像などを絡めて作っていきたい。

意見：自分たちが楽しんでいるのだったら、中の人で楽しめる組織にしてビジネス化したら？

意見：自己増殖的に楽しさを広げていったらいいのではないか。それが商品としても価値が出てくる。やろうと思えば明日からでもできるのでは？  
女性の生き方をアクションで表現する点が面白い。

A.アクションをしていると楽しい。はずせないポイント。

## 久芳さん

丸の内で大衆芸術を開催したい

## 榊原さん

劇場至上主義にしたい。

西洋音楽が入ってきて 150 年足らず、帝国劇場で開催されるようになってから根付くようになってきた。「ボッカチオ」は初演が帝国劇場。急遽女性が主演をやったエピソードに倣い開催する予定。

7 月に丸ビルホールでイベント開催の予定。

丸ビルから音楽を発信したい。街角に音楽をと一緒に「丸ビル音楽祭」計画丸の内が活性化するような動きをしていきたい。